

令和7年度第2回静岡県摂食障害対策推進協議会

議事録 概要版

1 開催概要

日時：令和8年2月9日（月）午後6時から7時30分

方法：オンライン

2 議題

- (1) 令和7年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施報告について
- (2) 令和8年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施計画について
- (3) 摂食障害に係る地域医療連携体制強化について

3 内容

議題（1）令和7年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施報告について

- ・相談実績は昨年度に比べ増加の見込み。
- ・他県からの相談割合は減少し、今年度は2割以下。県内からの相談が中心。
- ・子どもの心の専門研修管理委員会や精神科専門医プログラム内で浜松医科大学実施の研修会を案内。
- ・家族教室は浜松市や静岡市と共同で、オンラインや対面形式で例年通り実施。
- ・能動的な参加者（治療に携わる専門家）はオンラインでも活発な質疑応答があるが、受動的な参加者（摂食障害に馴染みのない一般医療従事者）はオンラインでは反応が薄い傾向。対面の方が質疑応答が活発になる。
- ・マンデークラブという学内中心で協力病院などオンライン参加をする勉強会や、ARFID（回避・制限性食物摂取症）に関してスタッフ間での勉強会やケースミーティングを実施。
- ・静岡県摂食障害フォーラムは開催場所を東部、中部、西部でローテーションしており、今年度は中部、来年度は浜松で開催。当事者ニーズに合わせてフォーラムの後半を座談会形式にしている。
- ・10代以下の患者増加を受け、予防のためにリーフレットを作成中。県教育委員会を通じて県内の小中高校の保護者向けに配布予定。県健康福祉センター、精神保健福祉センターなどにも紙媒体で設置予定。ただ、不特定多数への啓発は効果が薄いというエビデンスがあり、また病状の詳細な情報を載せると、かえって症状を悪化させる可能性もあることが懸念点。
- ・ピアサポーター養成事業は継続。
- ・浜松市を中心に、メンタルヘルスサポーター研修、小児科・学校との連携を検討

する支援検討会を年2回開催

議題（2）令和8年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施計画について

- ・例年実施している相談業務は引き続き、コーディネーターが週に3日、電話にて相談支援を行う。
- ・県東部での治療連携会議を5月に講演会形式で開催し、地域連携を強化。
- ・入院治療研修（オンライン、オンデマンド形式）を継続。
- ・小児科と精神科の合同講演会、ケースカンファレンスを開催予定。
- ・県東部の精神科医・医療スタッフ向けに講演会を予定。
- ・静岡県摂食障害フォーラムを浜松市で主催。
- ・ピアサポーター活動、行政との連携も継続。

<意見交換>

- ・若手医師向けの摂食障害研修（特に入院治療）の継続・強化を希望。
- ・県立こころの医療センターは県立こども病院が近くにあるため、連携ができています。
- ・県立こども病院は初診待機が3ヶ月。小児科医との連携は静岡県は比較的良好。
- ・経済的理由での県内の小児科閉鎖が不安材料。
- ・聖隷三方原病院は、救急患者対応がメインとなっている。BMI10程度でも診ることはできるが、マンパワーがないため、1人入ると病棟が回らない。診ることができるBMIは医師の個人差による。
- ・菊川市立総合病院では、スタッフの若年者対応経験不足がある。
- ・小児科医は摂食症に粹立てずに、急に食べなくなって体重が減った子どもを診ていることが多い。ARFIDは1、2ヶ月診療を待っている間に食べるようになることがある。
- ・クリニックは研修を受けていない医師もいるため、NCNPの外来診療プログラムのような研修をクリニックにも広げるべき。
- ・精神保健福祉センターでは、小児科から精神科への紹介の難しさや、初診待ちの間の対応について相談が入る。
- ・浜松市精神保健福祉センターでは個別相談と家族教室を実施。子どものメンタルヘルスサポーター研修を通じて、子どもの身近な専門家の知識向上を図り、予防につなげている。
- ・静岡市こころの健康センターは家族からの相談が多く、相談内容に応じて、こども病院、こころの医療センター、クリニックなどを案内している。今年度は浜松医大を案内したケースもあった。
- ・早期介入の重要性は理解しつつも、トリアージの実効性向上が課題。

議題（3）摂食障害に係る地域医療連携体制強化について

- ・来年度、摂食障害の外来患者の治療連携体制強化のため、地域における医療連携体制構築の方策を検討する委員会を設置予定。
- ・現状、潜在的な患者が多い中で、診療の受け皿整備と予防的介入が重要である。
- ・課題として、一般精神科医の専門知識不足による診療敬遠や初診待ちの長期化がある。
- ・また、10代以下の患者や重篤な身体症状がある患者が増加しているため、小児科・身体科・精神科の有機的連携が重要である。
- ・県内の現状と課題の把握、体制整備の基本的な考え方を整理するために、検討会を実施したい。

4 その他（県から）

- ・次年度も協議会を開催予定であり、就任依頼を書面送付する。